

## 為替週間展望 = ドル円は一段と上値を追う展開か

[9月5日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		8月29日～9月2日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	137.64	140.43(2)	137.37(29)	140.23	+2.59
ユーロ・ドル	0.9975	1.0079(31)	0.9911(1)	0.9977	+0.0011

  

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,650.84	-990.54	日本10年債利回り	0.244	+0.021
ダウ平均株価	31,656.42	-626.98	米10年債利回り	3.253	+0.212

<来週の主要経済統計等>

- 5日 中国8月財新サービス業PMI  
スイス第2四半期GDP  
独8月非製造業PMI 確報値、ユーロ圏8月非製造業PMI 確報値  
英8月非製造業PMI 確報値  
ユーロ圏7月小売売上高  
OPECプラス閣僚級会合(オンライン)
- 6日 日本7月勤労者世帯家計調査  
豪第2四半期経常収支  
豪中銀(RBA)政策金利  
独7月製造業受注指数  
米8月サービス業PMI 確報値  
米8月ISM非製造業景況指数
- 7日 豪第2四半期GDP  
中国8月貿易収支  
日本7月景気動向指数速報値  
独7月鉱工業生産指数  
ユーロ圏第2四半期GDP 確報値  
米7月貿易収支  
カナダ7月貿易収支  
カナダ銀行(BOC)政策金利、カナダ8月Ivey購買部協会指数
- 8日 日本第2四半期GDP 2次速報、日本7月経常収支  
豪7月貿易収支  
スイス8月雇用統計  
欧州中央銀行(ECB)政策金利  
ラガルドECB総裁記者会見  
米新規失業保険申請件数  
米パウエルFRB議長が金融政策に関する会議出席
- 9日 中国8月消費者物価指数、中国8月生産者物価指数  
カナダ8月雇用統計  
欧州連合(EU)加盟国のエネルギー担当相による臨時会合

【前回のレビュー】FRBによる利上げ継続姿勢に変化はなく、これはドル円をサポートする要因となりそうで、ドル円は底堅い動きを見せながら、緩やかに上値を追う展開になるとした。

【ジャクソンホール会議後はドル高基調が継続】

ワイオミング州ジャクソンホールで、8月25～27日に米カンザスシティ連銀が主

催する経済シンポジウム（ジャクソンホール会議）が開催された。26日の日本時間の23時から、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長が講演を行った。

講演の内容は市場の想定よりもタカ派的な内容となった。パウエル議長は経済の成長鈍化などの痛みを伴っても、インフレが抑制されるまでは金融引き締めが必要であるとの見解を示した。景気への配慮よりも物価を抑えることが重要という姿勢を明確に示した。

その後もFRB当局者からは、パウエル議長のタカ派発言に同調するようなコメントが相次いでいる。8月30日には、ボスティック米アトランタ連銀総裁「物価安定を回復させるというFRBのコミットメントは揺るぎない」「インフレとの闘いでの勝利宣言は時期尚早」「インフレは高過ぎる。政策は引き締めである必要」などと発言した。

同日にウィリアムズNY連銀総裁が、「9月の利上げ決定はデータ次第」「インフレは高過ぎる」「FRBはインフレを2%に戻すことに重点」「FRBはやや引き締め気味の政策が必要」などと発言した。

8月31日には、メスター米クリーブランド連銀総裁が、「景気後退につながってもインフレ抑制することが必要」「FRBはインフレ目標の2%に戻す決意」「来年早々に4%超までの利上げを支持し、来年の利下げはない」と発言した。来年には利下げに動くとの市場の期待を打ち砕くようなタカ派的な発言となった。

この日以降、米10年債利回りは上昇傾向にある。8月26日に3.04%前後まで上昇すると、その後は一段高となり、9月1日には3.25%台まで上昇した。1日発表の8月の米ISM製造業景況指数が市場予想を上回ったことで、ドル買いの動きに傾き、ドル円は約24年ぶりとなる140円台に乗せた。

CME FEDウォッチでは、9月のFOMC（20～21日）での0.50%の利上げ確率は27%程度に低下、0.75%の利上げ確率は73%前後に上昇している。パウエル議長の講演やその後のFRB当局者によるインフレ抑制への断固とした姿勢が反映されている。

9月のFOMCでの利上げ幅は今後の経済指標などのデータ次第となりそうだが、断固としたインフレ抑制を強調するFRB当局者の発言からは、0.75%の利上げ確率が高いと見込まれる。こうした中、ドル円は堅調な流れを維持して、一段と上値を追求展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、138.00～142.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、6日に日本7月勤労者世帯家計調査、米8月サービス業PMI確報値、米8月ISM非製造業景況指数、7日に日本7月景気動向指数速報値、米7月貿易収支、8日に日本第2四半期GDP2次速報、日本7月経常収支、米新規失業保険申請件数などがある。

#### 【ECBも大幅利上げか】

8月31日に発表されたユーロ圏の8月の消費者物価指数は前年比+9.1%となり、事前予想の+9.0%や前回の+8.9%を上回った。前月に続いて過去最高を更新した。エネルギー価格の高騰に加えて、食料品価格の上昇も物価上昇の要因となった。

ユーロ圏でも物価上昇が続いており、9月8日の欧州中央銀行（ECB）理事会では0.75%の大幅利上げに動くとの見方が広がっている。ECB当局者からも大幅利上げの必要性を主張する声も上がっている。8月27日にはシュナベル専務理事、ビルロワドガロー仏中銀総裁が大幅利上げを主張しており、8月31日にはエストニア中銀総裁が「9月の理事会では0.75%の利上げが選択肢の一つになる」と発言している。

FRBによる積極的な利上げ姿勢を背景にドルが堅調なことで、ユーロドルの上値を抑えている。一方で、ECBによる大場利上げ観測がユーロの下支え要因となっている。こうした中、ユーロドルは1ユーロ=1ドルのパーティを挟んでの振幅となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9800～1.0200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、5日に中国8月財新サービス業PMI、スイス第2四半期GDP、独8月非製造業PMI確報値、ユーロ圏8月非製造業PMI確報値、英8月非製造業PMI確報値、ユーロ圏7月小売売上高、6日に豪第2四半期経常収支、豪中銀（RBA）政策金利、独7月製造業受注指数、7日に豪第2四半期GDP、中国8月貿易収支、独7月鉱工業生産指数、ユーロ圏第2四半期GDP確報値、カナダ7月貿易収支、カナダ銀行（BOC）政策金利、カナダ8月IVEY購買部協会指数、8日に豪7月貿易収支、スイス8月雇用統計、欧州中央銀行（ECB）政策金利、9日に中国8月消費者物価指数、中国8月生産者物価指数。カナダ8月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。